

平成 2 9 年 第 3 回 猪苗代町議会定例会

町長説明要旨（6 / 6）

本日、平成 2 9 年 第 3 回 猪苗代町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には何かとご多用の中ご出席をいただき、ご審議をお願いできますことに対しまして、深く感謝を申し上げます。

私事ではありますが、この度の平成 2 9 年度福島県町村会総会におきまして、副会長の大任を仰せつかることとなりました。浅学非才の身ではありますが、県内町村の持続的発展のため、拝命した職務に誠心誠意努力する所存でありますので、引き続きご理解とご指導を賜わりますよう、よろしくお願いいたします。

さて、今議会が開催されるにあたり、平成 2 8 年度繰越明許費繰越しの報告、出資法人等の経営状況報告、平成 2 9 年度一般会計を含む 5 件の補正予算案など、重要な議案を提出いたしておりますので、慎重なるご審議をお願いするとともに、議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

提出議案の説明に先立ちまして、当面する町政の諸課題につきまして、所信の一端を申し上げたいと存じます。

（磐梯山火山防災対策について）

はじめに、磐梯山の火山防災対策について申し上げます。

昨年３月に、国及び福島県によりまして「磐梯山 火山噴火 緊急減災対策 砂防計画」が策定され、昨年度は、この計画を基に磐梯山が噴火した場合に被害を受けることが想定される磐梯山の周辺市町村で構成する「磐梯山火山防災連絡会議」が主体となり「磐梯山火山ハザードマップ」を作成し、３月に公表したところであります。

本年度は、このハザードマップを基に、磐梯山が噴火した場合の避難場所や避難経路などを示した「磐梯山火山防災マップ」をそれぞれの市町村で作成し、各家庭に配布することとしております。

昨年の一年間を振り返ってみましても、４月の熊本地震や９月の台風１０号による東北豪雨、更には１０月の阿蘇山の噴火など、私たちはあらゆる災害の発生リスクを抱えているといっても過言ではありませんので、磐梯山の噴火に関しましても、一日も早く防災マップを作成し、住民や観光客等の安全・安心に繋げてまいる所存であります。

（農業情勢について）

次に農業情勢について申し上げます。

本町農業の基幹作物である水稻につきましては、播種から田植え期、また、その後も天候に恵まれ、加えて農家の方々の適切な管理により順調に生育しているところであり、豊作と農作業の無事故を祈願しているところであります。

さて、全国ベースでは主食用米の需要が毎年 8 万トンずつ減少しており、年々生産目標数量も減少して来ましたが、本年度も生産者の皆様には、そば、大豆、園芸品目等の実転作に加え、備蓄米や飼料米等の新規需要米に取り組んでいただき、国から生産目標数量が配分される最後の年についても、目標数量以内での生産が達成できる見込みであります。

ご協力いただきました集落推進員並びに農業者の方々にお礼申し上げます。

平成 30 年産からは、需要量や在庫量等からの需給見通しなどを基に、県から「目安」という参考数値の情報提供があるものの、その取り扱いについては、各市町村の協議会に委ねられることとなります。

町としましても、米価の下落を抑え、安定した稲作農業経営を持続させるためには、需要量に見合った生産調整は引続き必要であると認識してい

るところであります。

そのため、これまで以上に関係機関や生産者と連携し、情報収集を図るとともに、今後ますます厳しくなる農産物の産地間競争に勝ち残り、消費者に選ばれる産地となるため、他産地との差別化や農産物に付加価値を加えた販売など、ブランド化や6次化への取組みを進め、農業所得向上に結び付けていきたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（町営磐梯山牧場の放牧再開について）

次に町営磐梯山牧場の放牧再開について申し上げます。

平成23年産の町内牧草モニタリング検査で当時の暫定許容値を越える放射性物質が検出されたことから、町営磐梯山牧場での放牧も中止しておりましたが、平成25年度から実施してきた営農再開支援事業により、昨年度で全ての草地更新が完了し放牧が可能となったことから、6月23日に7年ぶりに放牧を再開する予定で現在準備を進めております。

町営磐梯山牧場の放牧再開により、本町の畜産振興のみならず、原発事故からの復興と安全・安心を更にPRし、風評払拭に結び付けたいと考え

ております。

（経済情勢について）

次に、経済情勢について申し上げます。

わが国の経済状況については、内閣府発表の4月の「月例経済報告」によりますと、総論として「景気は、一部に改善の遅れも見られるが、緩やかな回復基調が続いている。」としております。

次に県内の経済情勢ですが、東北財務局福島財務事務所の4月「福島県内経済情勢報告」によりますと、「県内経済は回復しつつある。」としており、また、先行きについては、「各種政策の効果や復興需要などを背景に景気が回復していくことが期待されるものの、海外経済の不確実性などによる影響に注意する必要がある。」と総括しております。

町では、町内事業者の金融支援策として信用保証料補給制度等を実施しておりますが、すみやかな認定と信用保証料及び償還利子の補給金の早期交付を引き続き行ってまいります。

（雇用情勢について）

次に、雇用情勢について申し上げます。

厚生労働省福島労働局の報告によりますと、県

内の新規高等学校卒業者の就職内定率が3月末時点で前年同率の99.5%となり、昨年に続き高水準を維持しております。

就職内定者数は4,593人で、うち、県内ハローワーク受理求人への就職割合は3,489人で、県内比率は76%となっております。

また、「ハローワーク会津若松」の月例報告によりますと、3月分の有効求人倍率は県内が1.48倍、会津若松管内は有効求職者数が4,127人、有効求人数が5,291人で、有効求人倍率は1.28倍と、ほぼ前年並みの状況となっております。

このような中、町では、商工会と連携しながら、「新規学卒者就職支援奨励金」制度を町内企業に周知し、若年者の雇用拡大に努めるとともに、「無料職業紹介所」における求人情報の定期的な提供と相談窓口の充実を図り、登録者の就職に繋げてまいりたいと考えております。

（観光振興対策について）

次に、平成29年度の観光振興対策について申し上げます。

昨年度まで3ヶ年実施された「ふくしま DESTINATION キャンペーン」が終了し、観光にお

いては今年からが正念場を迎えるものと考えております。

昨年までＤＣで取り上げられた「観音寺川の桜」については、今年は開花時期がゴールデンウィークに重なったこと、町商工会青年部による「七色ライトアップ」も定着してきたこと、さらにはマスコミでも大きく取り上げられたことから、期間中の入込みは昨年の約２．５倍となる、約１１万２千人の来場があったものと推計しております。

本町では猪苗代観光協会と連携し、ホームページやフェイスブックで桜の情報発信に努めるとともに、今年は新たな取り組みとして、町内の桜のＰＲと飲食やお土産品の購入、さらには体験などを組み合わせた「春爛漫、猪苗代『桜』スタンプラリー」を実施したところであります。

今後も町内観光事業者や関係団体の皆様と連携を図りながら、地域にある観光資源の有効活用と磨き上げを行い、さらなる観光振興に努めてまいります。

（風評被害対策について）

次に、風評被害対策の進捗状況について申し上げます。

平成２８年の本町観光入込数は前年比１１万

5千人減の約166万人で、率にして6.5%の減少、平成22年と比較すると80%程度の入り込みとなりました。

なかでも2年連続の雪不足の影響により、スキー場の入込みが約12万5千人減少したことが大きく影響しております。

また、合宿等の学校数は震災前の水準に戻りつつありますが、教育旅行は震災前の7割程度、外国人旅行者については4割程度と分析しております。

そのため、本年度も観光宿泊者を十万人増加させることを目的に、教育旅行のバス助成を継続するとともに、6月1日にはプレミアム付旅行券「猪苗代町ハッピートラベルチケット」の発売を開始いたしました。

あわせて、外国人10名以上を送客したエージェンツへ支援金を交付する「猪苗代町外国人誘客支援金交付事業」を5月からスタートするとともに、国内宿泊者を送客したエージェンツへ支援金を交付する「猪苗代町観光誘客支援金交付事業」も6月から開始いたしましたので、国内はじめ、インバウンドにも力を入れ、観光客の呼び戻しを図ってまいります。

さらには、福島県の地域創生総合支援事業の採

択を受け、「道の駅を活用した磐梯山周辺の観光復興事業」として、ガイドマップの作成をはじめ、バスツアーやレンタサイクルの実証実験事業などを実施し、本町観光の復興に取り組んでまいります。

（原子力損害の損害賠償請求と支払い状況について）

次に、東京電力の町内事業者に対する損害賠償の状況について申し上げます。

東京電力ホールディングス株式会社津若松補償相談センターからの情報によりますと、本年4月末現在の本町事業者に対する損害賠償金の支払額は、延べ3,180件で、約181億5千万円となっております。

町東日本大震災風評被害対策会議では、毎月町商工会で開催される会津若松補償相談センター主催の相談会について、引き続き町民の皆様にチラシを回覧し、損害賠償請求漏れがないよう努めて参ります。

（全国高等学校総合体育大会について）

次に、本年度、南東北3県で開催される「全国高等学校総合体育大会」について申し上げます。

この大会は、教育活動の一環として高等学校生

徒に、広くスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とスポーツ精神の高揚を図るとともに、学生活動も含め生徒相互の親睦を深め、心身ともに健全な青少年を育成することを目的として開催されるものです。

「繋がる絆、魅せよう僕らの若き力」をスローガンに、福島県では10競技が行われ、夏季大会としては39年ぶりの開催となります。

本町では、猪苗代町総合体育館「カメリーナ」を会場に、プレ大会として「第39回東北高等学校空手道選手権大会」が6月23日から25日まで、「第44回全国高等学校空手道選手権大会」が7月28日から31日まで開催され、熱い戦いが繰り広げられます。

大会では、選手、役員はもとより、多くの皆様が全国各地からお越しになります。

猪苗代町の自然や文化のみならず、多くの町民の皆様と触れ合うこととなりますので、全町民を挙げて「おもてなしの心」でお迎えし、本大会を成功させるとともに、東日本大震災からの東北の復興に寄与し、元気な猪苗代町を広く発信してまいり所存であります。

（提出案件）

最後に、本定例会に提出いたしました議案について申し上げます。

提出いたしました案件は、
専決処分の報告案件が 2 件、
平成 28 年度繰越明許費繰越の報告案件が 1 件、
出資法人等に係る経営状況報告案件が 6 件、
専決処分の承認を求める案件が 5 件、
平成 29 年度補正予算案件が 5 件
条例の一部改正案件が 7 件、
工事請負契約の締結に関する案件が 2 件、
財産の取得に関する案件が 2 件、
そして、農業委員会の委員の任命につき同意を求める案件が 12 件、
の計 42 件であります。

各議案の細部につきましては、それぞれ所管する担当課長に説明いたさせますので、慎重にご審議のうえ、速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。